

第45回全国都道府県対抗自転車競技大会奮闘記

8月20日から22日まで山口県防府市美祢市において、来年開催される国体のプレ国体として開催され、連盟からは会場の下見を兼ね、来年の国体出場を目指すジュニアの3名が参加しました。

3名は、8月上旬から小橋勇利君が入学した愛媛県松山工業高校の夏季合宿に参加しており、その足で都道府県大会に出場しました。

ここで、小橋君の話を少し・・・

インターハイで優勝して以来、中国・四国地方の新聞やテレビの取材を受け、特集番組で放映されるなど北海道から自転車修行に来た高校生として取り上げられているそうです。

中国地方は連日34～36度のうだるような暑さの中、18日に防府入り「競輪選手宿舎」は合宿所的な様式ながら清潔で、料理の質、量ともに申し分なく、是非来年の宿舎にしたいところでした。

19日はフリー走行のため、トラックレーサーが到着次第バンクに入り、330バンクの感触を確かめ、午後のライセンスチェックの後も夕方までバンクにて周回練習等を行い、20日からの本番に向け調整を行いました。

20日はタイムトライアル系とポイントレースの決勝、それ以外のスプリント、ケイリン、チームスプリント、チームパーシュートは予選が行われ、ケイリン出場の伊藤雄哉君は予選で敗退し午後の敗者復活戦に望みをつなぐ結果となりました。

伊藤舜紀君はケイリンのすぐ後の1kmタイムトライアルに出場、1分15秒台のタイムでしたが入賞は出来ませんでした。

午前最後の種目、チームパーシュートは3人でエントリーし、バックからスタートしましたが、やはり3人では個々の負担が大きく、対戦相手の長崎県に追いつかれ、結果DNFでした。

午後行われたケイリンの敗者復活戦では、残り1周からスパートした結果ギリギリ逃げ切り2位で通過し21日の2回戦へ進むこととなりました。2回戦で4位以内に入ると8位までの入賞が確定することになります。（捕らぬ狸の何とやら・・・）

西尾君が参加したポイントレースは、参加者が24人と多く上手く逃げに乗ることができれば、上位入賞も期待されましたが、全国のレベルは高く結果を残すことはできませんでした。

21日、ケイリン2回戦は入賞を期待してのスタートとなりましたが、ジュニア代表など名だたるメンバーの中で奮闘しましたが、残念ながら4位以内に入ることはできませんでした。

22日のロードレースは場所を移し、カルスト台地で知られる秋吉台周辺の特設コースで行われました。スピードコース設定ですが、今回の完走者は参加者の3分の1と厳しいレースだったことがうかがわれます。成年・少年混走レース（ジュニアのギヤ比規制なし）のため現地と小野さんから12トップギヤを調達しレースに臨んだ結果、伊藤舜紀君がDNFでしたが、西尾君がトップ集団でゴールし11位、伊藤雄哉君も32位と上々の結果で終わりました。特に両選手はジュニアの強化選手や実業団選手と互角に走ることができ、かつ、結果を残したことは今後の選手生活に大いにプラスと自信に繋がったことと思います。